

## チャブレンからのメッセージ(7)

「想定外の大地震と震災」の3月11日

この3月11日(日)は、東日本大震災発生から1周年になります。100年に1度と云われる大地震によって引き起こされた巨大津波により、家屋も工場も流され、街は見るも無惨な姿になり、美しい海岸は変わり果て、多くの尊い命が奪われました。

大地震・巨大津波の爪痕は、正視に堪えられません。「ああ!」、「わあ!」という絶叫!そして、まさに、「生き地獄だ!」「神も仏もあるものか!」との心底からの嘆き悲しみの叫び声が、発せられました。想像を絶する惨状です。何故、このような悲しいことが起こるのでしょうか? 神さま、教えてください!との叫びが、聞こえます。

福島第一原子力発電所の事故により、放射能汚染の恐ろしさ、集団で避難生活を余儀なくされている方々は、精神的不安と苦難に耐えています。

旧約聖書には、「初めに、神は天地を創造された。…神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記1・1,31)とあります。

ここで、じっくりと私たちが考える必要のあることは、「地震と震災」との違いです。

私が、言えることは、地球は、神によって創造されてから、今に至るまで動き、変化し、生きているのです。地球環境の変化は、創造主が、「良しとされた」業のうちにあるのです。自然現象である地震や津波も、天地創造のうちに包含されていると信じます。

そして、神の御心により、神の似姿に造られ、生まれたアダムとイブは、祝福され、考え、感じ、選択する能力、自己決定の自由、愛する能力が与えられ、自由に駆使しました。そして「産めよ、増えよ、地に満ちよ」の御心により、人類の歴史の中で、私たちは生まれました。人間に与えられた能力、殊に選択の能力を使って、自分の人生を生きてきました。

私たちは、何処に住むか、どんな仕事をして、生活をするか、誰と共に生きるか、など、自らが良いと思う方を選らんで来たのではないのでしょうか。田舎に住むか、都会か。山手か、海辺か。職業は、サラリーマンか自営業か。独身か、結婚か。など、選択の余地は、限りないです。

津波を想定して堤防を築いたのは、海辺に家を建てたのは、誰ですか。絶対安全だと言われた原発を建てたのは、誰ですか。人間です。「想定外だった!」「神様、なぜ?」と問うのも人間です。

これまでの人類の歴史から、真剣に学ばない人間であり、自分中心の甘さがあるのではないのでしょうか。私は、天地創造の業の中に地震が含まれており、それに対して、震災は、人間の業、人災であると思います。災いに対して、私たち人間は、どう対処するか、が問われるのです。

十字架上の主イエスの叫びと甦り

今年は気候が不順で、今、3月も第4週目に入ったのに、気温は低く、桜の蕾も固く閉じています。しかし、教会の暦は、来週の4月1日が復活前主日です。その週の金曜日に、かねてから主イエスの言動に対して、恐れと反発をしていた律法学者たちや時の権力者たちは、おろかな大衆をそそのかして、主イエスを十字架に付けたのです。

主イエスが、十字架上で、『大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。』（マルコ 15・33-35）詩編第 22 篇 2 節の言葉を使って、人間イエスとしての心からあふれ出る気持ちを、大声で叫ばれたのです。しかし、神は沈黙しておられました。神はおられないのでしょうか。土曜日が過ぎ、日曜日の夜明け、お墓の中には、主イエスはおられません。神は黙って、わが愛する子を御許に召されました。いのちの甦りです。復活です。

「わたしはある。わたしはあるという者」に聴く

「モーセの召命」の記事が、出エジプト記 3 章 1~12 節にあり、その後続く会話が、重要です。モーセは神に尋ねた。「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われました（出エジプト記 3 章 13~14 節）

その意味は、「私は常になろうとする者になることができる」、つまり「どこでも、誰に対しても、何にもなる神だ」と理解するのがよいと思われまます。要は、神がどう出るかは全く予測がつかないということなのです。神は、人間の思惑とは無関係に、自分の好きな所に、好きな時に、好きなように触れてこられます。その沈黙の神に聴くのです。

天地創造の主なる神を信じる被造物としての私たち人間は、神を“あるがままに受け入れる”ことです。“あるがままに受け入れる”ということは、受身の状態を意味するのではなく、能動的な行動です。その神を受容するためには、まず自己受容、つまり、自分のありのままを受け入れることが大切です。私は旅人であり寄留者です（ヘブル 11・13）。私は、思いと、言葉と、行いと、怠りによって、多くの罪を犯していることを、受容し、懺悔します。神よ、私に勇氣、知恵、聡明の力をお与えください。神の福音宣教の使徒として使命を生きて行きます。

神は、被災者と震災復興のために働く人びとと共におられます

自然の猛威、天変地異の脅威をあらためて感じさせられた人たちが、日本国内だけにとどまらず、世界各国からボランティアが、被災地に集結し、「無償の愛」の実践をしています。

そして、被災者が、悲嘆のどん底から、勇氣と希望を持って立ち上がり、ただ 1 回かぎりの人生を、喜び楽しむことが出来ますように願っています。神は、復興に努力する人たちと共におられます。共に歩んでくださいます。

お知らせ：日本聖公会東京教区大畑喜道主教の命により、私は 3 月末日をもって囑託チャプレン職を退任します。お世話になりました。4 月から世田谷区にある聖十字教会に参ります。後任に管理チャプレン須賀義和司祭（八王子復活教会牧師）が就任されます。よろしくお願い致します。